

平成 15 年度
新庁舎における市民利用施設検討委員会ワークショップ
第 2 回ワークショップ開催

平成 16 年 1 月 31 日（土）福島市民会館にて
第 2 回新庁舎における市民利用施設検討委員会ワークショップが
開催されました。

2004 年新春
委員のみなさん、どんなお正月を迎えたか、
しばしご歓談いただきました。



第 2 回のテーマは「みんなの『思い』を整理しましょう」



第 1 回ワークショップで、
グループごとにまとめた「私達が考える市民利用施設は」をもとに
市民利用施設における「新しいキーワード」は何か、
その新しいキーワードから考え出される機能は何かを
委員の皆さんに考えていただきました。

1～3 グループ共通の市民利用施設の持つ機能の「キーワード」は
ユニバーサルデザイン・利便性・機能性
憩い・楽しみのスペース
交流・情報ネットワーク
景観・シンボル

また、ユニバーサルデザインに代表される「みんなにやさしい機能」や「避難場所としての機能」、
そして「協働」の考え方や「情報センター機能」によるネットワークの構築や、景観・シンボルなど
「環境への配慮」をサブキーワードに、市民利用施設での「行政」と「市民」の交流を重視した市民
利用施設の機能について、委員の皆さんにまとめていただきました。



「アドバイザーの山川、山口両先生も議論に参加」



発表終了後、アドバイザーの山口教授からいくつかコメントを頂きました。

「今日の作業は、前回の個別具体の思い(内容)から、一歩進んだ内容となっています。」

「誰もが安心して」 「いつでも気軽に」 「参加して楽しめる」

そんな市の庁舎・施設ということを踏まえて、その利用、管理運営するのは誰なのかというところまで踏み込んだ発表になっている。市民自らが管理運営に参画し、利用していく「協働」という考えが出てきました。どのような施設であれば市民が利用しやすいのかということが具体的にイメージできる内容になってきていると思います。」

ここで、委員の一人から市民利用施設に対する意見が出されました。

「市役所を『行政サービスを受ける場所』として考え、行政機能をパーフェクトなものにさせていただくことが大前提だと思います。市役所は、必要があつて行ったときに完璧な対応を望めるような場所であつて欲しい。この市民利用施設は必要最低限の予算で望むべきではないでしょうか？財政状況を考えると、出来るだけお金をかけないことが一番市民のためになると思います。」



この点については、第3回ワークショップにおいて、あらためて考えることとなりました。

最後に山川教授からコメントとアドバイスをいただきました。

「外国では、市役所、教会、広場が隣接していて、休日は教会に訪れた人々が集まり、賑わうところに市(いち)が開かれという形で、その周辺が利用されている。これから考えてゆく新庁舎そして市民利用施設は、その施設だけで何かを行おうというのは無理があるかもしれません？一週間を通じて利用されていくには、この施設単独では難しいですね。主たる利用者は、市役所に来る必要があつて、用事があつて来た人でなくてはなりません。また、市役所のそばに住んでいる人ということも大切なことです。利用者については総合的に考えなくてはならないと思います。また、この市民利用施設は、市役所の職員が執務をするスペースと全く切り離しては考えられないとも思います。」

「このワークショップは、委員の皆さんが主体となつて盛り上げていただきたいです。委員の年齢がやや高いので、若い人のWS参加を検討してはどうでしょうか？また、市役所の準備室の皆さんも肩書きをはずして是非WSに参加いただけるようお願いしましょう。」

山川教授のアドバイスを踏まえて、ワークショップのみ、新しいメンバーの参加を検討することになりました。また、委員からも市の職員のワークショップへ参加が要望され、一福島市民としての参加を検討する旨の回答がありました。